愛媛県歴史文化博物館 No.124

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture News

特別展

伊予の経塚名品展

堂ヶ谷経塚と松渓経塚

令和8年2月14日(土)～4月5日(日)

開館時間／ 9:00 ～ 17:30 （入館は 17:00 まで）
休 館 日 ／ 2/16 (月)、24 (火)、3/3 (火)、9 (月)、16 (月)、23 (月)

観覧料

大人(高校生以上)	550円 (450円)
65歳以上	350円 (300円)
小中学生	350円 (300円)

※ ( ) 内は 20 名以上の団体料金
※ほかに常設・特別展共通観覧券もあります

主催／愛媛県歴史文化博物館　　特別協力／国立文化財機構文化財活用センター・奈良国立博物館
後援／愛媛県市町教育委員会連合会・愛媛新聞社・NHK 松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛 CATV・ケーブルネットワーク西瀬戸・八西 CATV・西予 CATV・宇和島ケーブルテレビ・FM 愛媛・FM がいや

れきはく歴史文化講座ご案内 2026.1 - 2026.3

■源氏物語講座

「紫上の死と光源氏の悲しみの日々 －御法巻－」
日　時:3月21日(土)
講　師:伊井 春樹(当館名誉館長)
会　場:研修室1･2

■歴史講座

正保国絵図と元禄国絵図の差異 －伊予国絵図宇和郡の描写を中心に－
日　時:3月29日(日)
講　師:井上 淳(当館学芸課長)
会　場:研修室1･2

■古文書講座

初心者向けの古文書講座①　庄屋から代官へ出す願書届書の模範文例
日　時:3月1日(日)
講　師:柚山 俊夫氏(伊予史談会会長)
会　場:研修室1･2

初心者向けの古文書講座②　明治前期における行政区画
日　時:3月14日(土)
講　師:柚山 俊夫氏(伊予史談会会長)
会　場:研修室1･2

■考古講座

経塚って何だろう？特別展を楽しむための経塚入門
日　時:2月21日(土)
講　師:三浦 彩(当館学芸員)
会　場:研修室1･2

シンポジウム「伊予と四国の経塚を考える」
日　時:2月23日(月･祝)
講　師:時枝 務氏(立正大学文学部教授)
　　　岡本 桂典氏(高知県文化財保護審議会会長)
　　　岡田 敏彦氏(愛媛考古学協会会長)
会　場:多目的ホール

西条市宮之内遺跡出土金銅製舎利容器をめぐって
日　時:3月15日(日)
講　師:松葉 竜司氏((公財)愛媛県埋蔵文化財センター)
会　場:多目的ホール

■体験講座

建築のミカタ ～松山市久谷地区の建造物を巡る～　バスツアー
日　時:3月8日(日)
講　師:佐藤大規研究室(愛媛大学社会共創学部)
会　場:松山市久谷地区
参加費:6,000円程度(予定)
【締切】2月10日(火)

受講時のお願い▶講座の写真撮影、録画･録音はご遠慮ください。
申込方法▶当館HPの講座申込フォーム･お電話からお申し込みください。
お問い合わせ▶企画普及グループ・歴史文化講座係
TEL (0894) 62-6222　FAX (0894) 62-6161

工事のお知らせ

1階／民俗展示室1(愛媛の祭りと芸能)は、照明設備更新工事のため、令和7年12月1日(月)から令和8年2月9日(月)まで**閉室**します。
ご迷惑をおかけしますが、みなさまのご協力をお願いいたします。
※工事中の観覧順路等につきましては、当館ホームページのお知らせに掲載しております。

展示スケジュール 2025.12-2026.3

2025年12月
- テーマ展「乗り物がある風景」2025年12月13日(土)～2026年4月5日(日)

2026年1月
- ▶新春イベント2026　2026年1月2日(金)･3日(土)･4日(日)
- テーマ展「石鎚山　歴史と民俗」2025年12月13日(土)～2026年2月1日(日)

2月・3月
- 特別展「伊予の経塚名品展」2026年2月14日 (土) ～4月5日 (日)
- テーマ展「おひなさま」2026年2月14日 (土) ～4月5日 (日)

常設展　えひめの歴史と文化
新常設展　密●空と海 ― 内海清美展

ご利用案内

■開館時間　9:00～17:30(入館は17:00まで)
■休 館 日　月曜日(下記カレンダーをご参照ください)
■観 覧 料　★変更前(～2026年2月13日)

	区分	一般	団体(2割引)
常設展・テーマ展	大人(高校生以上)	580円	480円
	小･中学生	無　料	無　料
	65歳以上	300円	250円
新常設展	観覧無料		

★変更後(2026年2月14日～)

	新常設展(内海清美展)		常設展(常設展＋内海清美展)	
	一　般	団　体	一　般	団　体
大人(高校生以上)	340円	280円	700円	580円
小･中学生	無　料	無　料	無　料	無　料
65歳以上	200円	170円	400円	330円

※特別展の観覧料はその都度定めます。　※団体は20名以上です。
※未就学児は無料です。
※テーマ展をご覧いただくには、常設展示観覧料が必要です。

Museum Calendar 2026.1-3

■イベント　■休館日　■臨時休館日

1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

愛媛県歴史文化博物館
MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE
管理運営:指定管理者 いよてつ総合企画
〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222
【ホームページ】 http://www.i-rekihaku.jp
●発行日　令和8年1月11日　●編集/発行　愛媛県歴史文化博物館

考古

石鎚神社先達用記

年　代：明治14（1881）年
法　量：21.6cm×14.8cm
所　蔵：当館蔵

本書の刊記には、愛媛県士族で新屋敷村（西条市）に住む牧龍太が著者として記されています。冒頭の漢文による序を記す菅橘州は小松藩の儒学者近藤篤山の門人、巻末に漢文を寄せている近藤簀山が篤山の次男で、いずれも旧小松藩士であることから、本書は篤山に連なる旧小松藩士を中心に編集されたものと思われます。

本文は石鎚山の祭神の解説に始まり、次に御山市の記述に移り、6月25日から7月1日まで四方の山道が開かれ、近隣から数万人の白衣の参詣者が、先達に導かれて石鎚山を訪れていることが記されています。本道・支道などの石鎚山の登山ルートの記述も詳細で、ルート上や近隣の見どころにも触れられています。

また本書には、石鎚山を描く木版色摺が折り込みで挿入されるほか、木版墨摺による9枚の挿絵が付いています。そのうちの1枚が「東遥拝所之図」です。東遥拝所の位置には、かつて四国霊場第64番札所の前神寺がありましたが、明治政府の神仏分離政策により廃寺となり、東遥拝所（石鎚神社）に改められます。挿絵はその変化を端的に示す絵画史料としても貴重です。

（学芸課長　井上 淳）

※石鎚神社先達用記は、テーマ展「石鎚山 歴史と民俗」で展示します。

考古

堂ヶ谷経塚 金銅製経筒・経巻

出土地：堂ヶ谷経塚（伊予市）
年　代：久安六年（1150）
法　量：経筒は高さ30cm、口径12cm
所　蔵：当館蔵（愛媛県指定有形文化財）

経塚とは経典を埋めた場所のことです。平安時代から鎌倉時代にかけて盛んに作られました。当時は、「釈尊の教えが失われ乱れた世となるが、56億7千万年後に弥勒が現れて人々を救済する」という思想がありました。経塚の造営は、釈尊の教えを記した経典を弥勒の現れる未来まで残すという、仏教的な善行として始められたと考えられています。善行を積むことで、造営者自身の極楽往生や現世幸福、父母の追善供養などを願ったのです。多くの場合、経典は巻物状の経巻とされ、筒状の容器に入れて埋められました。この容器を経筒と呼びます。経筒は経典のタイムカプセルといえるものです。

本資料は、伊予市堂ヶ谷経塚から出土した経筒と経巻です。記録によれば、経筒は板状の石を並べた40cm四方の石室の中に納められ、蓋石の上には扁平な小石が積み重ねられていたということです。経筒は金銅製で、縁が花弁状で宝珠形のつまみが付いた蓋や、円形の台座を持つ装飾的な技巧が凝らされた品です。側面には、以下の銘文が刻まれています。「各為二親　奉入如法経筒　久安六年八月卅日　乙氏親遠　藤原氏女　秦氏是延」。久安六年（1150）は、県内で確認されている経筒の銘文としては最古のものです。銘文からは、平安時代の久安六年に、乙氏、藤原氏、秦氏の3名が各々の両親のために如法経を納めた経塚であることがわかります。経筒と経巻がセットで残っていると共に、埋納状況の情報や年号を記した銘文があり、経塚資料として大変貴重なものです。

経筒は、2026年2月14日開幕の特別展「伊予の経塚名品展 ―堂ヶ谷経塚と松渓経塚―」にて公開します。この機会にぜひご覧ください。

（学芸員　三浦 彩）

特別展

伊予の経塚名品展 ―堂ヶ谷経塚と松渓経塚―

経典を容器に納め埋めた経塚は、経典をはるか未来まで残すためにつくられたタイムカプセルです。平安時代末期より極楽往生や追善供養のため盛んに営まれるようになり、鎌倉時代にかけて流行しました。

本展では県内最古の紀年銘をもつ堂ヶ谷経塚出土経筒と松渓経塚出土経筒・経巻を初公開します。さらに陶磁器としても価値の高い石手寺経塚出土品など、県内各地の経塚出土の名品や埋納された仏教遺物も紹介。経典を埋めるという行為や込められた祈りに注目し、経塚の魅力に迫ります。

2026年
2月14日（土）～4月5日（日）

●会場：企画展示室　●観覧料：特別展観覧料が必要です。

松渓経塚出土法華経　奈良国立博物館蔵

テーマ展

石鎚山　歴史と民俗

石鎚山登拝者と季節宿　村上節太郎氏撮影　昭和33（1958）年

石鎚国定公園指定から70周年を記念して、石鎚信仰が広く庶民にまで普及した江戸時代から、観光地としての開発が進む昭和にかけての石鎚山の歴史を紐解きます。また、愛媛大学教授で地理学者の村上節太郎氏（1909～1995）が、お山開きなどの習俗を撮影した写真も併せて紹介します。

2025年
12月13日（土）～2026年
2月1日（日）

●会場：文書展示室　●観覧料：常設展観覧料が必要です。

テーマ展

乗り物がある風景

時代とともに発展し、瞬く間に広く普及した乗り物は、単なる移動手段に留まらず、人々の暮らしや働き方、街の姿を大きく変化させました。

本展では、絵葉書や古写真を中心に乗り物に関する資料を集め、その多様な種類やデザイン、人々の生活に寄り添い働く姿と風景を紹介します。

2025年
12月13日（土）～2026年
4月5日（日）

●会場：考古展示室　●観覧料：常設展観覧料が必要です。

三瓶隧道　当館蔵

テーマ展

おひなさま

春の訪れと女の子の成長を祝う雛祭り。

当館では今年もひなまつりを祝って、公家の一条家から嫁ぎ、西条藩9代藩主松平頼学夫人となった通子の雛飾りを中心に展示します。展示室では通子の気品高い有職雛をはじめ、次郎左衛門雛、享保雛、古今雛、御殿飾り、変わり雛など多彩なおひなさまの姿を紹介します。さらに、おひなさまと関連して、それぞれの時代の女の子が遊んだ人形や台所道具、ままごと道具もあわせて展示します。春のおだやかな一時、博物館の愛らしいおひなさまをどうぞお楽しみください。

御殿飾り（曲水の宴）　明治23(1890)年頃／当館蔵

2026年
2月14日（土）～4月5日（日）

●会場：文書展示室　●観覧料：常設展観覧料が必要です。